

南の風 72

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

71号の続きです。ジャンプしてコースチェックする狙いは、一気に間合いを詰めるためです。ドリブラーを1m位のところでコースチェックするねらいは、早すぎると抜かれますし、遅ければファールになってしまうからです。詰めるタイミングが大事です。①～⑤の項目をぜひ練習に取り入れて見てください。

続いてマッチアップゾーンについて書きます。マッチアップゾーンは、自分のエリア（地域）の相手を守るシステムのことです。このゾーンには守るべき原則があります。前に南の風でも触れましたが、3原則を書きます。

1 ボールマンにはマンツーマン

ゾーンでありながらボールマンに対しては、マンツーマンの長所を使うのがマッチアップゾーンです。但しマッチアップの考え方には、ノーマルマンツーマンと異なる点があります。それは、ボールマンに対して、ドライブを誘い抜いてくるように仕向けることです。抜いてきた相手を、次のディフェンスが対応して、アリ地獄のように次から次へと囲むことがねらいの一つです。またマッチアップゾーンでは、ボールマンにマンツーマンの時よりタイトに（2分の1アーム）付きます。ボールプレッシャーを強くすることで、パス回しを速くさせないことをねらいます。ボールマンへのディレクションは、ノーマルのマンツーマンと同様に、近いラインへの誘導しミドルドライブを阻止します。

2 ボールマンには、一番近いプレーヤーが常にマッチアップ

マッチアップとはいえ、基本的にはゾーンですから、相手はポジションをギャップにとったり、パッシングで攻めてきたりします。リスクとしては、誰がボールに最も近いのかを判断し難くなるということです。譲り合うことは厳禁です。すべてのプレーヤーが、判断する習慣をつけるようにし、コミュニケーションすることが大事です。ボールマンをフリーにすることは致命傷になります。

3 ボールサイドのスポットは必ず埋める

「スポット」とは、両エルボー、ミドル（エルボーの中間）、両ローポスト、フープ（ゴール）、両ウイングを指します。（図解しないと分かりにくいですが）8か所になります。もちろん、ディフェンスは5人しかいません。5人で8か所を埋めるのではなく、ボールに近いところから、ゴールに向かうスポットを順に埋めていくという形になります。ボールがトップやウイング、またコーナーにある場合などを想定して、スポットを埋める練習を繰り返すことが大切になってきます。

マッチアップゾーンは難しいディフェンスです。ミニバスに取り入れるかは別にして、コーチングの幅を広げるために勉強してみてください。マリンボールカップ女子日に、あるチームのゾーンを見ていて感じたので取り上げて見ました。次号は、なるべく早くマリンカップの女子日について書きます。